



## 髄膜炎菌性髄膜炎ワクチンについての説明

静岡県立こども病院 予防接種センター

### 1) 髄膜炎菌感染症

髄膜炎菌は、髄膜炎菌性髄膜炎(流行性髄膜炎)の原因菌です。咳やくしゃみにより伝染し、流行することがあります。感染すると、2～10日(平均4日)後に、発熱、頭痛、項部硬直などの症状で、突然発症します。重症の場合は、意識障害やけいれん、出血症状を伴い、発症から1～2日以内に死亡することもあります。髄膜炎を発症すると死亡率は高く、救命できてもしばしば重い後遺症が残ります。

### 2) ワクチンの効果

2歳以上の子どもに対しては十分な予防効果を期待できます。

2歳未満の子どもには、予防効果が十分ではないので、抗菌薬も併用することが勧められています。

### 3) ワクチンの特徴

4種類の髄膜炎菌の免疫成分を含む不活化ワクチンです。

### 4) 接種方法

0.5mlを1回、上腕三角筋に筋肉内注射します。

### 5) 副反応

20%以上で強い痛みを感じます。時に迷走神経反射のため、失神することがあります。そのほか、倦怠感や頭痛、発熱が10～20%の頻度で見られます。

### 6) 接種後の注意

ワクチン接種後30分間は院内にとどまり、様子を観察して下さい。背もたれのある椅子に座って、安静を保ちましょう。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、失神、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

### 7) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。